CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン聖書学院
2019年7月・8月号 NO.176

ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。　（ローマ書１１章３３節～３６節）

CFNJ
特別講義

「ローマ書」に於ける 神の驚くべき救いの計画

ピーター・ツカヒラ師

「ローマンズロード」(Romans Road)

ローマ書は、多くの人たちにとって、とても人気のある書物です。それは「信仰による救い」というテーマを組織的に、かつ分かりやすく教えているからです。最初の１章から６章迄はよく「ローマンズロード」（ローマへの道）と言われます。先ず１章から２章にかけては、信仰を持つことを拒む者たち、つまり不信仰の人々の、人生の結末が書かれています。そして３章では、ユダヤ人やギリシャ人を始め、人類、全ての人が神の前に罪を犯したので「死」が人類に入ってきたこと。４章では、アブラハムを通して律法による行いと信仰の違いについて。そして５章では、その罪深い人類すべてを神は愛し、ご自身の御子であるイエスキリストを通して和解を与える事。そして６章に於いては、だから罪から解放され、もはや罪の奴隷ではなく、私たちは義の奴隷として歩む事実。そして、それに伴い神からの賜物は、イエスキリストによる永遠の命であるということが書かれています。これがローマンズロード（ローマの道）です。しかし７章に於いては、少し雰囲気が変わってきます。この章に入るとパウロ自身の葛藤について書かれています。それは、人は確かにこの救いの道を信じ、その道に歩むようになっていたとしても、尚、個人的な苦しみを内に持っているからです。それは、外からではなく、自分の内側から、救いの道を歩もうとする者を、神から引き離そうとする力が働いているからです。

「パウロの叫び！」

パウロは葛藤し叫びます！

「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ書７章２４節）

パウロは自分自身の内側にある罪の性質による葛

藤を見て苦しんでいます。このパウロの苦しむ姿を見ると、とてもショックを受けますが、しかし、反面、あの大使徒パウロでさえこのような葛藤で苦しむのか？という慰めも感じるのではないでしょうか。ですから真実は、私たちは誰であっても同じように悩み葛藤するものです。この葛藤は信じる前には感じないものでした。それは私たちは以前は罪の奴隷であったからです。もちろん罪の結果で悩むことはありました。しかし、内側にあるその罪の性質について悩むことは救われる前にはなかったでしょう。ですからこのような悩みを内に持つようになったのは信仰を持つ以前ではなく、信仰を持った後でした。それは何故でしょうか？それは、人が信仰を持つと、私たちの内に変化が起こるからです。「もっと神様に従って生きたい！」「もっと正しく歩みたい！」という願いを持つようになるからです。ですからこのような葛藤は、救われたからこそ持つ変化です！私自身も苦しみました。そして８章に入りますが、この８章は、誰でも大好きな個所です。それは、その前章にあるように、例え敗北的な葛藤を持ち続けていたとしても、神様からの逆転勝利が語られているからです！この８章は、１節で結論として「こういうわけで」から始まります。パウロの結論はこうです！

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」（ローマ書８章１節）

これは、神にある者は、例えどんなに罪の性質の中で葛藤していたとしても、もうキリスト・イエスによる贖いの故に、誰も責めることは出来ず、もはや罪と死の律法から私たちは完全に解放されているからです。勿論、神様は罪自体を喜びません。罪を責めるお方です。しかし罪で苦しむ者を責めることはありません。いや！むしろだからこそ、ご自身の霊を送られたのです。聖霊を送られたのです。このお方は、私たちの内に働いて、私たちをとりなしてくださいます。「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。」（ローマ書８章２６節）だから神さまが私に望むことは成就してくのです。それが８章全体に於いて書かれています。この８章は素晴らしい章です。希望に溢れ、読むものに勇気を与えてくれます！

「もはや（何からも）キリスト・イエスにある神の愛から引き離されることがない！」（ローマ書８章３９節）　圧倒的勝利！大逆転！で終わります。この章は私も大好きな章です。クリスチャンであれば誰でも大好きなはずです。なぜならとても励まされるからです。しかし、多くのクリスチャンはこの８章で一旦、読むのをやめてしまうのです。

「瞬きの理論」

１章から８章迄は、正に「救いに至る道」です。この道を歩んだ人はとても励まされます。そして満足します。勝利がもたらされたからです。しかし多くのクリスチャンは何故か？そこで一旦、その歩みを止めてしまいます。そして目を閉じてしまうのです。

そしてページを飛ばして、この後、おもむろに目を開けて読む個所は、「ローマ書の１２章」からです。何故か？９章から１１章を飛ばし、次に１２章から再び読み始めるのです。

１節の「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」（ローマ書１２章１節）

この感動的な御言葉へと飛んでいきます。これを私は「瞬きの理論」と呼びます。これは可笑しなことです。多くのクリスチャンは、ローマンロードである、１章から８章まで読み進みながらも、何故か？９章から１１章をジャンプして、目をつぶり、そしていきなり１２章から読み始めます。この間の章には目を閉じているのです。実は長い歴史の中で教会は、この９章から１１章に目に閉じてきました。何故でしょう？何故？クリスチャンたちはこの所を読まずに来たのでしょうか？それは、この３章は、「イスラエルについて」書かれているからです。

「パウロに驚くべき啓示」

このローマ書９章から１１章にかけてパウロは、イスラエルについて語りだします。実はこの３章こそは、パウロの内にあった個所であり、神がパウロに語られた預言の言葉であり、驚くべき啓示です。

しかし、この３章は過去、様々な疑いの目で見られてきました。それは「このような疑いです。「何故？当時すでにイスラエルは国家としては滅ぼされているのにイスラエルと言えるのか？（紀元後７０年にローマ軍によりエルサレムは滅亡していた。）」又、「民も国々に世界に散らされているのに、それでも民族と言えるのか？」更に、この個所の「イスラエルというのは霊的な意味では教会の事ではないのか？」「ユダヤ人とは実は私たちの事で、私たちクリスチャンこそ、霊的なユダヤ人なのだ。」というようなことです。だからこの３章は過去、教会の歴史の中で、あまり重要ではないのだと考えられてきました。しかし、過去はどうあれ、今の時代、私たちの時代に、何と！イスラエルは戻って来たのです！帰ってきたのです！それは国としてです。ですからこの時代こそ！最もローマ書を正しく読める時代であるといえます。ローマ書は、この３章を飛ばして読むのではなく、１６章全体を正しく読むことが必要です。そして今の時代こそ、それが出来るのです。

「ユダヤ人の完成の時」

神はパウロに驚くべき啓示を与えています。１１章の１節に「それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けてしまわれたのでしょうか。決してそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。」（ローマ書１１章１節）パウロはこの問いかけを、何と今から２０００年前に記しました。そして驚くべきことに、この「神は、ご自分の民を退けたのか？」という問いかけは、現在に至るまで長く問われ続けています。何故でしょうか？その理由は、「ユダヤ人がイエスキリストを拒絶したので、イエスキリストもユダヤ人を拒絶したからだ。」というものです。この考えは長く教会の中で問われ続け、カトリック、プロテスタントを問わず今も変わっていません。同じです。原因が、「ユダヤ人がキリストを退けた為」であるというものです。それは、この問いかけを、大使徒であるパウロ自身が否定しているのにもかかわらずです。ここで皆さんに、１つの質問をしたいと思います。パウロは神からの霊感に基づいてこの書簡を書き記しました。そのパウロは、「ユダヤ人がキリストを退けたということを知っていたでしょうか？」もちろん知っていました。何故ならパウロ自身クリスチャンを迫害したからです。しかし、パウロがキリストに捕らえられてから、今度は以前の友がパウロを迫害するようになりました。そのパウロがこのように質問するのです。「神はご自分の民を退けてしまわれたのでしょうか？」そこでパウロ自身が答えます。「決してそうではない！」「どうしてそんなことがあり得ようか！」とも言います。神はユダヤ人を退けたりすることはあり得ません。１１節を見てください。

「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。」（ローマ書１１章１１節）

ですから、ユダヤ人が倒れたのは、それは神の御心ではなく、むしろ神は願わなかったけれども、その事を通して結果的に異邦人に救いが及ぶ事になりました。でもそのようになったのは、異邦人に対する妬みを起こさせる為であり、神はそれを用いて万事を益としておられるからだということです。ですから神はユダヤ人の失敗を補って、むしろそれをチャンスに変えるお方です。そしてその事が私たち異邦人の救いへと結びついていくのです。そして、１２節、

「もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。」（ローマ書１１章１２節）

パウロはここで、もしユダヤ人の失敗が異邦人の救いとして益となり、用いられたのであれば、ましてやそのユダヤ人の完成の時にはどれほど素晴らしいことが起こるであろうかと言います。その時は驚くべきことが起こります！想像もつかないような出来事が起こるでしょう！使徒行伝でなされたこと以上の御業が起こるのです！

「日本が目覚めるとき！」

そして更に続けてパウロは語ります。１５節には、「もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることでなくて何でしょう。」（ローマ書１１章１５節）

これはこう言う意味です。ここでユダヤ人たちのつまずきが、かえって国々の救いに繋がったのであるならば、その終わりの「完成の時」には、すべてのものが「死から命」へと移されるのです。それは国々の蘇りの時です！救いの時です！完成の時です！日本の国は今はまだ神の前には、死んでいる状態です。よくリバイバルという言葉を使いますが、私はリバイバルという言葉を日本に使いたくありません。もしアメリカやヨーロッパの国々なら相応しいでしょう。それは以前、神を信じたからです。でも日本は１度も神を受け入れたことがないのです！信じたことがないのです！ですからリバイバルとは言えないでしょう。ではどのように言いましょうか？それは目覚めです。覚醒です！国家的な覚醒です！日本は目覚める時です！死んでいたものが蘇る時です！復活の命が満ち溢れる時です！そして今が日本の目覚めの時です！この目覚めを日本は、アメリカやヨーロッパから受け取るのではありません。どこか他の国から受け取るのでもありません。シオンから受け取るのです！イスラエルから受け取るのです！それがオリジナルです。どうか皆さん！オリジナルをコピーされた国から受け取らないで下さい。ぜひ本物から受け取ってください！

「接ぎ木された異邦人」

パウロは次に、私たち異邦人について述べています。ここで２つのオリーブの木について語っています。１つは植えられたオリーブの木としてのイスラエルです。そしてもう１つは私たち異邦人である野生のオリーブの木です。イスラエルの木は神が選び、アブラハム時代からご自身が植え、ご自身で耕し育てられてきた木です。そしてもう一方の木は、美しい木ではあっても神が植えた木ではありません。その木は自分の力で何とか生き延びようとしてきました。そしてどうしたらもっとよりよくなるのかと試行錯誤してきました。それは私たちの文化であり、国の事です。私たち異邦人は美しくはあっても野生のオリーブの木です。そしてパウロはここでとても大事なことを言っています。

「もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」（ローマ書１１章１７節・１８節）

私たちはキリストの弟子となりました。キリストにあるものとなりました。しかしそれは、もともとあったイスラエルの木に接ぎ木されたものなのです。信仰によって接ぎ木されたものなのです。しかし、二千年近く、教会は真逆の事を教えてきました。それは、「もしユダヤ人がキリストを信じるなら、私たちのようなクリスチャンなるのですよ。」と教えてきました。だからもしキリストの弟子となりたいのなら、「あなた方はユダヤ人を捨てなければならない。」と教えてきました。しかしそれは大きな間違いです！パウロはこういます。異邦人こそ！アブラハム以来からの木、イスラエルの木に「接ぎ木」されたものなのです。勿論、私たちは信仰によってすでにアブラハムの子孫です。でもそれは信仰によって接ぎ木されたものと言うことです。

「枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。」（ローマ書１１章１９節・２０節）

ここでユダヤ人はイエスキリストを拒絶したために、その不信仰ゆえに枝が折られました。しかし、それは私たちの為でした。私たち異邦人の為でした。日本人の為でした。日本人は約束の民ではなく、聖書を書き記した民でもありません。でも幸いにも、ユダヤ人がつまずいた為に、救いが日本にも及びました。これは接ぎ木されたということです。これは何かをしたからではありません。相応しいからでもありません。一方的なことです。恵みです。だからパウロは言うのです。異邦人は誇ることはできず、思い上がってはならない。むしろ神を「恐れるべき」

であるといいます。

でもここで何故？「恐れなさい」といったのでしょう。何故？喜び、感謝せよと言わなかったのでしょうか？この恐れという言葉には、とても預言的な意味が込められています。ユダヤの民はこの２０００年間、国を追われ、住まいも追われ、言葉さえも失いました。宗教改革が始まった国ドイツにおいても、ユダヤ人は迫害され、あのヒットラーは多くのユダヤ人を計画的に殺しました。そんな不幸に思えるユダヤ人の歴史そのものが、ここでパウロは、「枝が折られる」といったのです。これは預言的な言葉です。そして私たちは、そこに接ぎ木されたのです。だから恐れるべきであるというのです。私たちは彼らユダヤ人よりも優れているのでしょうか？ ２１節には

「もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。」（ローマ書１１章２１節・２２節）

ホロコースト

「驚くべき神の救いのご計画」

私たちは覚えるべきです。神はユダヤ人に厳しくあられたように、私たちの国も同じように扱われます。であれば、もし神のいつくしみにとどまらないならば、ユダヤ人と同じように厳しい裁きが待っているのです。イスラエルは私たちにとって兄のような存在です。彼らから学ぶことが出来るのです。そのイスラエルの歩みを見て、初めて、神の前に順序正しく歩むことが出来るのです。そしてパウロは驚くべき言葉を語ります。

「彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。」（ローマ書１１章２３節）

皆さん！これは驚くべき言葉です！今から何と！２０００年も前に、パウロは預言として語ったのです。それは、やがて今から２０００年後に、ユダヤ人がたとえ「枝が折られた」ものであっても、後の時代に「接ぎ木」される時が来る！神様は、再度、ユダヤ人を「接ぎ合わせる」事がお出来になる！ということです。これはビックニュース！グッドニュースです！それは神様の計画です！それはやがて私の民であるユダヤ人が、神の王国に加わる日が来る！そして、イエス・キリストこそが私の救い主であることを知る日が来る。王の王、主の主であると賛美する日が来るということです！皆さん、パウロは今から２０００年も前にこの事を預言しました。そして、最初にその実現を目にしているのが私たちです！今、私の教会には多くのメシアニックジュ―（キリスト教を受け入れたユダヤ人）の人たちが来ています。しかし、そこで牧会しているのは、野生の木である私です。このようなことが今、起こっているのです。今のこの時代が、正にユダヤ人たちが帰って来ている時代です！今があのパウロが見ていた時代です！私はいくつかの本を書きました。私の願いは、その本が２０年位は読み続けられれば嬉しいという思いですが、皆さん！何とパウロのこの預言の言葉は、２０００年間も読み続けられ、そして今、解き明かされているのです！神はパウロに語られました。「私は決して私の民を見捨てない！私が再び私の民をイエス・キリストに接ぎ木することが出来ないと思うのか？」そのように神はパウロに語られたのだと思います。そして２５節にパウロは語ります。 「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、」（ローマ書１１章２５節）

パウロは最後でついに奥義を語ります。それはユダヤ人の「かたくなさ」は、全体の救いの一部分の

出来事であり、神がそれを許されたのは、限られた時、限定的なことである事。それはつまり異邦人の救いの完成の時までであり、そこには日本も含まれます。そしてイエス様が「あとのものが先になり、先の者があとになる。」（マタイ２０章１６節）と仰ったように、先の者であったユダヤ人がそのかたくなさ故に後にされたのは、先に異邦人の救いが完成して、その後にユダヤ人が救われる。それを成し遂げる為に、ユダヤ人の「かたくなさ」は用いられたのです。

「こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。」（ローマ書１１章２４節）

神のご計画はこのようにして全体が成し遂げられるのです。ですから先ず、異邦人全体が救われなければなりません。そしてその後にユダヤ人が救われるのです。そうなることをユダヤ人達は待っています！ ですから私たちは急がなければなりません。福音を宣べ伝えなければなりません。パウロはこのローマ書の １ 章から１１章まで、とどめなく神の計画を語り続けました。そして神はこの１１章の終わりに人類の救いのご計画の窓を少し開いて下さったのかもしれません。そしてパウロはその窓から外を見て、そのご計画のすばらしさに感動します！驚きます！

神はパウロにこう語られたかもしれません。「あなたの民（ユダヤ人）は確かに多くの苦しみを味わうでしょう。世界中に散らされるでしょう。それは２０００年かかるからね！しかし、あなたたちは必ず帰ってきます。そしてもう一度国として立ち上がる。そしてイエス・キリストの霊があなた方を救うときが来ます！」そう語られたかもしれません。これはパウロだけに語られた驚くべき神の救いのご計画です。ですからパウロはこの計画を知り、もう賛美せずにはおれませんでした。それがこの言葉です！

「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」

（ローマ書１１章３３節～３６節）

CD販売・刊行物

●お申し込みは／学院事務局まで

※サンプルは、下記のページで聴くことができます。

http://www.cfnj.com/media.html

「神の指がふれた時」

定価／1枚（CD）
（送料別）700円

「神のみことばのいやしの力」

定価／1枚（CD）
1,000円
（送料別）

CFNJ小冊子
無料プレゼント！

●お申し込みは／学院事務局迄

「聖霊のバプテスマを受けるには」（ゴードン・リンゼイ著）

「いやしの信仰」（ゴードン・リンゼイ著）

「山をも動かす祈り」（ゴードン・リンゼイ著）

「主の恵み尽きることなく」（鍛冶川紀子著）

CFNJサマーアウトリーチ

祈りとご支援のお願い

学院の2年に一度の海外アウトリーチ、今年は、ミャンマーとシンガポールへ2つのチームに分かれていくことになりました。シンガポールチームは、スタッフの坂本清憲さんが率い、ミャンマーチームは、鍛冶川夫婦が約半数の学生たちと共に行きます。（私紀子は今年の初夢の中で「あなたがた夫婦は今年ミャンマーに行くことになる」と語られていました。）日本人であれば今年ミャンマーへはビザなしで行けることが決まっています。中にはブラジル系やペルー系の学生がいますが、彼らはビザの不要なシンガポールチームに配属される予定です。この海外アウトリーチは、学院の2年コースのカリキュラムに組み込まれている必修の科目なので、学生たちはみな、行くことを決断して、必死で祈っているところです。中には初めての海外旅行となるためパスポートもない学生や、参加費の備えがゼロの学生もいますので、それぞれの信仰のチャレンジは決して小さいものではありません。しかし、主のみ言葉に従い、出て行って福音を宣べ伝えようとしている学生たちに、主が良くしてくださらないはずはありません。どうか、皆様もお祈りに覚えてくださって、行くと決めた者たちの必要がすべて満たされ、あふれる恵みを宣教地に届けることができるように、お祈りとご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

●期　間：2019年7月12日（金）～22日（月）

●参加費：ミャンマーチームは、約20万円（1名分）
シンガポールチームは、約18万円（1名分）

＜祈りの課題＞

1. 参加者全員の費用が支払期日（６月２０日）までに全額（約３８０万）備えられるように。（6月5日現在、320万円が満たされました。残り60万円です。）
2. ミャンマーは雨季なのに雨が降らず、猛暑が予想されるため、全員の体調が守られ、遣わされた場所で喜んで奉仕できるように。又、通訳者が備えられるように。
3. シンガポールはたくさんの奉仕の扉が開かれているため、更に2つのチームに分かれて行動することが考えられていますので、リーダーの坂本清憲さんの元、チーム内の協力と一致がもたらされるように。

いつも温かいご支援を下さる皆様方の上に、主の豊かな祝福と報いがもたらされますように。

YFN2019 レポート!

2019年5月2日~4日迄の3日間 ●ゲスト：池原仰一師

今年の、YFN は、ルカの福音書19章17節にある「10の町を支配する者になりなさい。」という御言葉をテーマとして行われました。ゲスト・スピーカーには、沖縄プレイズチャーチの副牧師であり、沖縄での超教派ミニストリー「ファイヤータイフーン」の代表牧師として次世代の建て上げに励んでいる、「池原仰一師」をお迎えし、10の町集会を中心にミニストリーをしていただきました。今年も、北海道内外から多くの若者が集い、述べ100人の人々で、会場は熱気で包まれ、私たちは、主の御前で、地が揺れ動くような賛美と礼拝をささげることができました。

参加者に対して、仰一師は、メッセージのなかで、10の町を支配する者となるための資質とは、小さなことにも忠実であるしもべの心をもつことであると話され、日々、イエス・キリストから、仕える者としての姿を学び、実践していくことが大切であると参加者に励ましを与えてくださいました。

ミニストリータイムでは、小さなことにも忠実なしもべとなることを決心する時をもち、すべての参加者が、主の前に飢え渇きながら、主からの大きなチャレンジを受け取っていました。

また、参加者のなかには、今まで不忠実であった人生を一新して、小さなことにも忠実な人生を歩んでいきますとの証があったり、同年代の信仰者と共に主を礼拝できる喜びを体験したりと、主の覆いと臨在が、キャンプ期間中のすべてのなかにあり、主の平安のなかで YFN を終えることができました。

来年も、各地から、YFN キャンプに参加することができるような、計画を立てながら、私たちスタッフは、準備を進めております。この終わりの時代に、日本のリバイバルの鍵となる、次世代を育成するユース・フォー・ザ・ネイションズのために、今後とも、皆さまのお祈りのサポートをよろしくお願い致します。

皆様の上に、主の豊かな恵みと祝福がありますように。

YFN ディレクター　坂本清憲

2019年度 入学式

2019年4月15日(月)
午前9時より

●この年度の4月から、アルプス生3名、1・2年生、4名の、計7名が学生として新たに学びをスタートしました。これからの歩みの為にお祈りお願いいたします。

アルプスコース 山谷 秀和
（沖縄県）

■主の御名をほめたたえます。この度、アルプスコースに進学しました山谷秀和です。私は、自分にはっきりとした召しがなかったのでアルプスコースへの進学を躊躇していました。その中で、1・2年コースの2年生最後の3学期に学ぶことの楽しさを発見しました。このまま終わらすのはもったいない、アルプスコースに進学してもっと学びたいと思うようになりました。私はもうすぐ還暦を迎えるのでこれから開拓していく事は難しいと思いますが、心の傷ついた人々に寄り添っていく働きをしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

アルプスコース 本間 大聖
（長野県）

■ハレルヤ!この度 ALPS コースに進学できたことを嬉しく思います。
今まで学院での２年間の学びの中で経験したこと、また失敗も多かったですが、皆さんの支えのおかげで進学し、主についてより深く学ぶことができることを本当に感謝します。
これからの一年の学びを通して、神様との関係をさらに深め、自分の召しを確信していきたいと思います。主に全ての栄光をお返しします!!!

アルプスコース 船曳 恵美子
（札幌市）

■ハレルヤ！！主の御名をほめたたえます！！娘達と共に2年で卒業するつもりでしたが、主に「水の上を歩ける信仰を与える、３年目に行きなさい」と語られてALPS 進学を決断致しました。ALPS 進学は私にとってチャレンジでしたが、主の御言葉を信じて、主にしがみついて１年間、前進致します。「主よ、もしあなたでしたら私に水の上を歩いてここまでこいとお命じになってください。イエスは来なさいと言われた。そこでペテロは船から出て水の上を歩いてイエスの方に行った」マタイ14章28節～29節

1・2年コース 松元 一
（エルナニ 松元 クリスチャンはじめ）
（出身地：ペルー）

■入学式とても楽しく、そして感動しました。数年ぶりの学生生活、勉強などなど色々不安な事だらけで北海道に来る前はドキドキと不安の入り交じった生活を送っていましたが、改めて学院にいる先輩方を見て、面白い人、変ってる人、でもみんながクリスチャンとして人生を楽しんでいて、いつも新たなチャレンジをしようとしているのをみてかなり勇気をもらいました。それと同時に、この学院なら必ず楽しめる、必ず変われる、神さまのなされようとしている事をもっと見れると思いました。この学院に導かれた事を本当に神さまに感謝しています。そして暖かく、面白く迎えてくれた先生方、先輩方にマジで感謝してます。これからの日々楽しみで、ワクワクの毎日です。全ての事に対して一人一人の方々に感謝します。そして何より神さまに感謝します。

1・2年コース 井上 貴志
（京都府）

■ハレルヤ！主の御名を賛美します！4月から夫婦揃って学院に入学できたことを心から感謝いたします。私は数年前に神様と個人的に出会ったことをきっかけに献身の思いが与えられました。1年前から具体的に考え、夫婦でそれぞれ祈る時をもちましたが、神様の恵み、そして家族や周りの方々の祈りによって驚くほどスムーズに目の前の扉が開かれていきました。これから試練や困難、取り扱われるべき領域がたくさんあると思いますが、その事柄のゆえに神様を賛美し、楽しんで学院生活を歩みたいと願っています。主は良いお方！これから起こることに期待します！

1・2年コース 井上 保恵
（京都府）

■ハレルヤ！主の御名を褒め称えます！この学院に入学し学べること、本当に心から感謝致します。主に献身したいと幼い頃より抱いていた夢が、驚くべきタイミングで道が開かれ、周りの方たちの祈りに支えられ入学することができました。これから困難な道を歩む時が来ると思います。しかし、どんなときでも「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」この御言葉を実行し歩んで行きたいです。そして、神様との関係を深め、自分の使命をしっかり受け取り、これからの人生を主に捧げたいと願っています。主に期待します！ハレルヤ！

1・2年コース 落合 由美
（札幌市）

■このたび、CFNJ 聖書学院に導かれ、入学できましたことに感謝します。今まで、いろいろな御言葉が与えられ、主の導きがあるように感じつつも、仕事を諦めることができず、迷っていました。しかし、今回、神様は私に次の段階に進むように導かれたのだと思います。短期間うちに次々と状況が変わっていきました。主の祝福の中を進んでいることと、早くも主にある訓練が始まっていることとを実感しています。この学びの期間に、じっくりと主と交わり、聖書を深く学び、味わっていきたいと思います。

アメリカ・ダラス市のクライスト・フォー・ザ・ネイションズとの提携姉妹校

ホームページをご覧ください!

cfnj.com

随時願書受付中!

新入生募集中!

2019年9月（2学期）・2020年1月（3学期）から入学できます。

無料体験入学 実施中！

平常授業のある3日間（3泊4日）

※詳しくは事務局まで。

■SNSでCFNJの最新情報を
・Facebook：@CFNJBS
・Instagram：CFNJ聖書学院

学院の特徴

- 臨在溢れる賛美礼拝
- 御霊に満ちた講師陣
- 実践的なカリキュラム
- 国内外のアウトリーチ
- 独身寮・家族寮完備
- アメリカ留学編入制度
- 多彩な選択課目

選択課目

- ●演劇クラス
- ●ピアノクラス
- ●ワーシップドラムクラス
- ●英語クラス
- ●ヘブル語クラス
- ●ボイストレーニングクラス

7月のゲストスピーカー

7月5日(金)は、卒業式。午前9時から

有賀喜一師

●フラー神学大学卒。牧師であり、伝道者、神学校教師。全日本リバイバルミッション代表。超教派の聖会で講師を務め、複数の神学校で教鞭をとる。学院顧問。

7月1日（月）～4日（木）
2・3時間目の8時間

CHRIST FOR THE NATIONS JAPAN

宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343
●HP:www.cfnj.com 郵便振替:02780-4-4688
●e-mail:office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文